校長室から応援メッセージ（3）

令和6年7月12日（金）

「勉強している自分がある」

皆さん、こんにちは。哲学者西田幾多郎は「個人あって経験あるにあらず、経験あって個人あるのである」と言っています。経験を勉強に置き換えると、私が勉強しているにあらず、勉強している私があるのである…、何か主体性がないようですが、これは実は究極の主体的な姿だと思います。

私は高校時代からこの考え方が気に入っていて、模試の成績の動向など無頓着でいいと思っていました。高3最後の模擬試験で志望大学合格可能性5％未満というたいへんありがたい数値をいただいた時も、5％未満でもそれは限りなく5％に近く、20年に1回合格なら、今年がいきなりその1回かもしれない、と楽観的でした。そして予備校に通うことになりました。

合格可能性という数値が編み出されたのは親切心からなのだと思います。でも入試を受ける前からあなたの合格可能性は〇〇％です(私の場合は〇％未満、〇が一つでしたが)、考えてみるとこれは随分失礼な話です。私たちは確率の世界でなく、現実の世界を生きているのに…。

私は予備校に毎日一時間ほどかけて通い、授業を受けて夕方帰る、その生活が世界の全てでした。他人から確率として与えられる数値と、日々机に向かい続ける、手ざわりのある現実の世界と、そのどちらを信じるのか、という覚悟から言えば、どんな確率も日常生活には勝てない、と思います。

受験勉強を最後までがんばり、入学した大学でまたがんばる、それが現実的でもあり理想でもある人生の姿だと思います。第一志望に合格してそれでよし、でなく、自分にとって最高の大学とは、その大学の門をくぐり、卒業後何年かして、自分の学生生活はあの大学ででしかあり得なかった、本当に素晴らしい出会いだったと振り返る、その時初めてわかるのです。

今日一日、今この時の一つ一つの思いと行動、その全てが人生です。勉強している自分がある、数値で表すことのできないその姿を信じて、受験勉強は、丁寧に、じっくり進めてください。ベクトルACでなく、ベクトルAB＋ベクトルBCでいいと思います。それは決して遠回りではなく、経験を積み重ねていく、たいへん重みのある道のりなのです。引き続き、皆さんの健闘を祈ります。